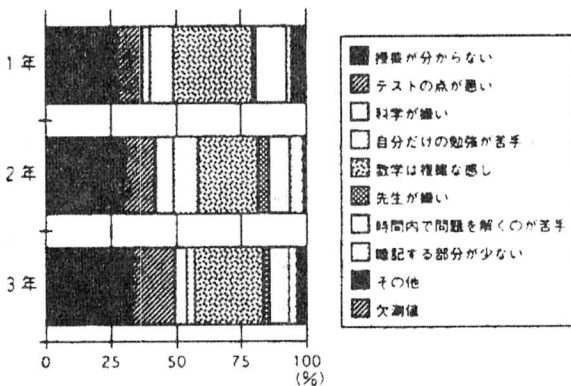


小学校3, 4年生は、分数や小数の計算が始まる時期であり、この時期に「算数嫌い」が増えることはうなずける。そして中学校1年が決定的な分かれ目となって、その後両極化が進んでいくように観察される。中学校1年の数学は、生徒の学習に大きな影響を与えているように思われる。

授業が分からない

数学が「嫌いな理由」の中で、最も回答が多かったのが「授業が分からない」である。好きな理由でも「授業」を挙げるものが多く、「授業」によって、数学に対する意識を決定されている。

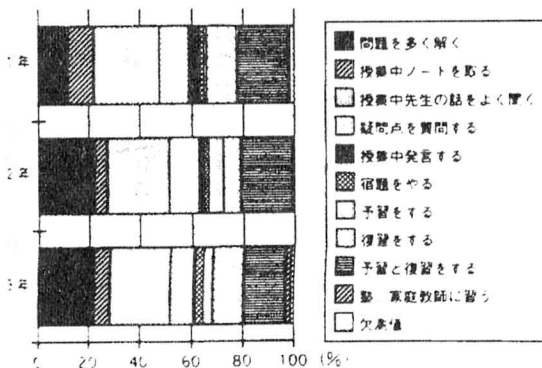
数学が嫌いな理由



どうすれば、数学が得意になるか

「問題を多く解き」「授業中、先生の話をよく聴き」「予習・復習をする」。生徒たちはよく自覚しているようにも見える。

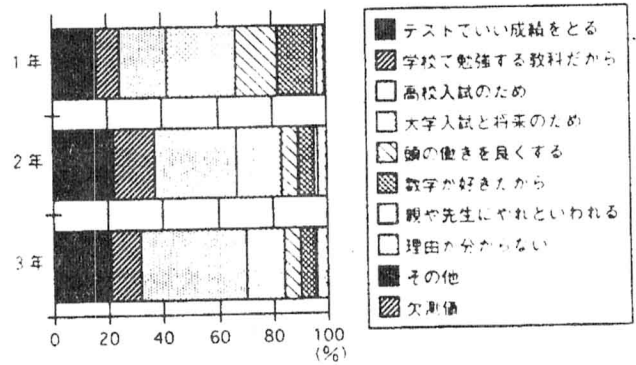
数学を嫌いでもなくするために、努力すること



なぜ、数学を学ぶのか

「数学を学ぶ目的」について、「数学が好き」「頭の働きを良くする」といった答えは少ない。成績の良し悪しに関係なく、「テスト」「学校の科目」「入試」などの実際的で功利的な理由が多い。

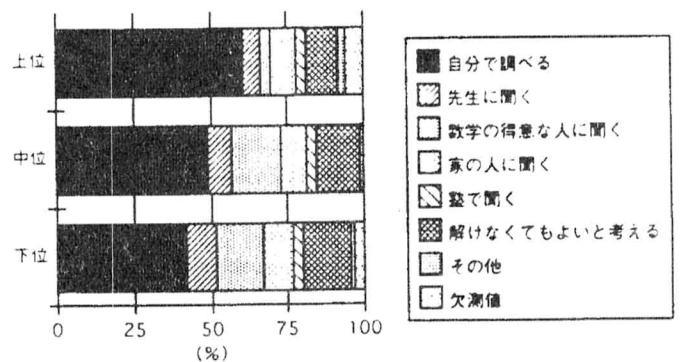
数学を勉強するのは、何のためか



習っていない問題にどう対処するか

「まだ、習っていない問題にあったときどうするか」という問いに対して、「自分で調べる」という答えが50%以上ある。成績別に見ても、下位の生徒でも50%近いのである。

まだ習っていない問題があったとき、どうするか(2年)



数学に関して、挑戦意欲と自覚は想像以上に高いようにも感じられる。その意欲が継続的な努力として定着するために、普段の授業の中でどのような指導を試みていくかが、問われているのであろう。